

2025年知財・情報フェア&コンファレンスの評判総合レポート

本レポートでは、2025年9月10日～12日に東京ビッグサイトで開催された「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」（第34回）の評判について、来場者・出展者の声、セミナー講演の内容と評価、SNSでの反応、メディア報道など多角的な観点から調査・分析します。各項目ごとに一次情報を踏まえてまとめ、必要に応じて要約表も交えてご紹介します。

基本概要とハイライト

まず、本イベントの基本情報と主要なハイライトを以下にまとめます。

項目	内容
会期	2025年9月10日（水）～12日（金） 10:00～17:00
会場	東京ビッグサイト 西3・4ホール
主催	一般社団法人発明推進協会、一般財団法人日本特許情報機構（JAPIO）、産経新聞社
出展社数	158社・団体（過去最大規模） ¹
来場者数	延べ15,207名（3日間合計） ² ³ ※前年13,032名から約2割増加
主要トピック	生成AIの活用、知財情報のDX化、無形資産経営・ガバナンス 等 ⁴ ⁵
併催イベント	特別講演、各種フォーラム、国際特許機関セミナー、出展者プレゼンテーション（全86テーマ） ⁶ ⁷

上記のとおり、本年は**来場者数・出展社数ともに過去最大**を記録し、特に「生成AI（生成型人工知能）」関連のソリューションが数多く出展されるなど、**AI技術の活用が大きな焦点**となりました。また知財情報のデジタル化（DX）や**無形資産の活用**といった新潮流も取り上げられ、セミナーやフォーラムで活発に議論されています ⁵。以下、各観点ごとに詳細を見ていきます。

来場者の感想・反応



東京ビッグサイト会場内の出展ブースに集まる来場者たち（Patent IntegrationやLexisNexis等のブース周辺）。生成AI関連のデモに人だかりができ、活気にあふれていた⁸⁹。

会場の様子：会期中は終始活気ある雰囲気、初日から熱気を帯びた会場には専門性の高い来場者が多数訪れました⁹。公式発表によると9月10日（水）3,754名、11日（木）4,610名、最終日12日（金）6,843名が来場し、最終日は朝から大変な賑わいとなりました¹⁰¹¹。実際、「会場内で各ブースの担当者から直接話を聞いて有益だった」「これだけ多くの知財ソリューション企業と一度にコンタクトできる場は他にない」といったポジティブな声が来場者から多く聞かれています¹²。来場者アンケート結果（※会場出口で調査、後日公表予定）の集計はまだ出ていませんが、SNS投稿やブログから伺える反応は概ね好評で、「最新のAI技術やサービスに直接触れられて有益」「業界の人脈づくりに役立った」といったレビューが目立ちました¹³。

参加しやすさ・快適さ：本展示会は事前登録制・入場無料で行われ、公式サイトでは会場MAPや出展社のみどころ情報が事前公開されるなど、スムーズに参加できる工夫がされています¹⁴。会期中は各社ブースで来場者向けのホスピタリティも提供されており、例えばGMOブランドセキュリティ社のブースではアイスコーヒーのサービスがあり、休憩がてら立ち寄った来場者から「冷たい飲み物で一息つけて助かった」との声も聞かれました¹⁵。同ブースでは商標キャラクター「TMB45」がお出迎えし、他にもヒト型ロボット「ひとみん」や犬型ロボット「めぐりん」が来場者と記念撮影に応じる企画も展開され、ユニークな演出がSNS上でも注目を集めました¹⁶。会場は9月開催で昨年（10月開催）より若干暑い気候ではあったものの、「各社工夫を凝らしたおもてなしを楽しめた」と参加者からは概ね好意的に受け止められています¹⁷。

展示内容への関心：来場者の関心を最も集めたのは生成AIを活用した特許調査・分析ツール群でした。「今年は会場がAIだらけだった」との声が昨年に引き続き聞かれるほどで、実際に「AI搭載の特許検索・要約・分類・請求項生成ツールがずらりと並び、AIが知財を変える本格普及段階に入ると実感した」というコメントもありました⁹。各ブースで行われるデモンストレーションには人だかりができ、次々と質問が飛び交う様子も見られたとの報告があります⁸。特に生成AI関連の展示には熱狂的ともいえる盛り上がりが見られ、「来場者の関心も非常に高い」と感じた参加者もいました¹⁸。一方で、「AIが急速に進化しすぎてついていくのが大変」「便利になった反面、業務への影響が読みにくい」といった慎重な声も一部で聞かれ、AI活用への期待と不安が入り交じる様子でした¹⁹²⁰。全体として、「有益な情報収集の機会だった」「想像以上に活気があった」といった肯定的な感想が大半を占めています²¹。

出展企業・団体の評価・反響

出展規模と来場効果：今年の知財情報フェアは**出展企業・団体数158社**と史上最多となり、会場内の各ブースは朝から夕方まで自社製品・サービス紹介で終始盛況でした^{1 22}。公式サイトによれば「**出展者・来場者共に満足度の高い展示会となった**」と総括されており^{23 24}、実際に多くの出展者が「**想定以上に多くのお客様にブースへお越しいただいた**」「**商談や情報交換が活発に行われた**」と手応えを語っています²⁵。ある出展企業（前年参加）の報告では、ブース来訪者数が524名に達し前年実績を上回ったほか、ブース内ミニセミナー（定員120名）も満席になる盛況だったとのことです²⁶。今年は前年より来場者が約2,000名増えたこともあり、**出展各社にとって昨年以上の反響が得られた**と推測されます²⁷。

出展者から見た来場者の質：出展者側の声として特に多かったのは「**直接ユーザーから要望や意見を聞けて有益だった**」「**頂いたフィードバックを今後のサービス改良に活かしたい**」といったもので、単なる宣伝の場に留まらず**双方向コミュニケーションの機会**として本展示会に満足したコメントが見られました²⁸。実際、知財ソリューション企業のミガリオ社は公式ブログで「第一線で活躍する知財担当者の生の声を伺えたことは弊社にとって大変大きな財産」と述べ、課題や今後の展望を直接聞ける貴重な機会だったと振り返っています²⁹。ブース位置が会場端だった企業でも「多くの方が足を運んでくれた」と感謝を示しており³⁰、**来場者の専門性・熱意の高さ**が出展者にも強く印象づけられたようです。

当日の手応えと課題：多くの出展ブースでは**想定を上回る来訪者対応**に追われるほどで、特に最終日は「休憩を取る暇もないほど」の盛況ぶりだったとする声もありました³¹。特許価値評価サービスを提供するPATWARE社は、「非常に多くの方にご訪問いただき厚く御礼申し上げます。当日は混雑のため十分ご対応できなかった場面もあった」と公式サイトでコメントし、嬉しい悲鳴とともに対応しきれなかった課題にも言及しています³²。第2日目は午後に記録的な雷雨となり交通機関が乱れましたが、それでも遠方から来場する方が多く、悪天候の中訪れた来場者に対して出展者から感謝の声が上がっています³³。こうした状況からも、本イベントへの**来場者の熱意や業界の注目度の高さ**が伺えます。

出展者の率直な声：取材記事によれば、ある出展企業担当者は「お客様の多くが**最初からAI搭載のサービスを求めてくる**。紹介する立場として少し“AI疲れ”する面もあるが、利便性が飛躍的に高まっているのは確かで嬉しい進化だ」と述べています³⁴。また別の出展者は「**AIの進化が速く、業界も劇的に変化していくだろう**。**近い将来には姿を消す出展企業もあるかもしれない**」と急激な技術変革への予測を語り、来場者との対話の中でも業界の将来像について踏み込んだ意見交換が行われたようです³⁵。商標・ブランド保護分野でも、「模倣品対策ソリューションを出す競合が増え、厳しい戦いになっている」との声が上がっており、**出展各社間の競争意識も垣間見えました**³⁶。

出展見送りのケース：一方で、全ての企業が毎年出展しているわけではありません。長年連続出展してきたある特許調査会社は、「昨年・一昨年はブースを出したが、新規顧客をこれ以上増やす状況になく今年は出展を見送った」とブログで明かしており³⁷、各社の事情によって出展判断は分かれています。ただし**過去最大158社**が出展した今年の状況を見る限り、新規顧客獲得や市場アピールの場として依然魅力的なイベントであることは間違いなく、出展を見送った企業も来場者として会場に訪れて情報収集を行うケースが見られました^{38 39}。

セミナー・講演の内容と評判

3日間の会期中、会場内には特設ステージが設けられ、**多彩なセミナー講演やフォーラムが連日開催**されました。特別講演・フォーラムだけでも計数十本に及び、知財分野の専門家や業界リーダーによる最新トレンドの解説が**全て聴講無料（事前予約制）**で提供されています⁶。各セッションはいずれも盛況で、**無料セミナーや出展者プレゼンテーションの多くが満席**となり、「ブース前で開催されるミニセミナーも参考になる

内容が多かった」と参加者から好評を得ました⁴⁰。以下に主な講演・フォーラムの内容と評判を紹介し
ます。

・**主催者特別講演：** 初日午前に開催された特別講演「生成AI台頭時代におけるブランド戦略と知的財産管理術」では、会場が満席となる盛況ぶりを見せました⁴¹。講師を務めた古川愛一郎氏（一般社団法人キャラクターブランド・ライセンス協会 名誉会長）は、スヌーピーやきかんしゃトーマスといった海外キャラクターの商品化ビジネス事例を紹介しながら、ブランド戦略の重要性とそれを支える知財マネジメントの在り方について講演しました⁴²。生成AI技術の急速な進歩がブランド戦略に与える影響について具体例を交えて考察する内容で、現代の知財実務者にとって示唆に富む講演となりました。冒頭には特許庁の河西康之長官も来賓挨拶を行い、業界トップによるメッセージ発信もありました⁴¹。来場者からは「最新のAI時代のブランド戦略について大変勉強になった」「具体例が多く実務に役立つ内容」といった声が聞かれ、本特別講演は高い関心を集めました⁴²⁴³。

・**特別フォーラム①（日本ライセンス協会企画）：** テーマは「企業における生成AI活用の最前線」。パナソニック、富士フイルム、サントリーといった各業界を代表する大手企業の知財部門トップがパネルディスカッション形式で登壇し、自社での生成AI技術の事業活用事例や知財業務へのAI導入について議論しました⁴⁴。モデレーターはKIT虎ノ門大学院教授の杉光一成氏（日本に「IPランドスケープ」の概念を紹介した第一人者）で、企業とアカデミア双方の視点からAI時代の知財戦略が語られた点が注目されました⁴⁵。このフォーラムも定員300名の会場が全て埋まる満席となり、聴講者が熱心にメモを取る姿が見られるほどの盛況でした⁴⁶。「大手各社の生の事例が聞けて有益」「AI時代の知財部の役割について示唆を得た」と参加者の満足度も高く、業界内でも話題を呼んだセッションです⁴⁷。

・**特別フォーラム②（知財・無形資産ガバナンス協会企画）：** テーマは「知財・無形資産の投資・活用による企業価値の創造戦略」。2025年設立の一般社団法人知財・無形資産ガバナンス協会のお披露目も兼ねたフォーラムで、日本企業の持続的成長に知的財産や無形資産をどう活かすかが論じられました⁴⁸。登壇者には同協会代表理事の菊地修氏や副理事長の川名弘志氏（KDDI株式会社 コーポレート統括本部プロフェッショナル）など産官学から有識者が参加し、知財ガバナンスの新たな枠組みや企業価値向上のための指標について議論が交わされています⁴⁹。「戦後日本企業の原動力であった知的資産に再び光を当て、『知財で日本を元気にする』というビジョンの下、熱い議論が展開された」と報じられ、会場からも活発な質問が寄せられるなど聴講者の関心も非常に高かったようです⁵⁰。知財と無形資産の融合という新潮流について学べる貴重な機会となり、「知財部門と経営の橋渡しに役立つ示唆を得た」との声も聞かれました。

・**国際特許機関セミナー（知財・情報コンファレンス）：** 2日目には恒例となっている世界の特許庁等による国際セミナーが開催されました⁵¹。日本特許庁（JPO）をはじめ、世界知的所有権機関（WIPO）、欧州特許庁（EPO）、韓国特許庁（KIPO）、JETROニューヨークなど海外の知財関連機関の担当者が登壇し、各国・各機関における最新の知財施策やデータベース動向が紹介されています⁵²。例えばEPOからは欧州の新しい統一特許制度（ユニタリ特許）や出願動向、WIPOからは最新の特許情報検索データベース「PATENTSCOPE」のアップデート紹介など、グローバル視点での知財情報トピックが共有されました（※具体的な内容は推測を含む）⁵²。この国際セミナーは知財実務者にとって貴重な情報収集・交流の場となっており、「各国の制度の違いを比較できて有用」「世界の知財トレンドを把握する良い機会」といった評価が例年間かれます。今年も各機関の最新レポートが直接紹介され、国際的な知財ネットワークづくりにも一役買ったようです。

・**出展者プレゼンテーション：** 上記の公式セミナー類に加え、会場内の小セミナースペースでは出展企業による実践的なプレゼンが終日開催されました。今年は47社による計86テーマもの出展者プレゼンが行われ⁵³、特許調査AI「AI Samurai」や商標AI「TM-Robo」など各社の製品デモ・活用事例紹介が次々と繰り広げられています。いずれも現場の課題解決に直結するノウハウが満載で、「ミニセミナーとは思えないほど充実した内容」「直接質問もできて理解が深まった」と来場者からの評価も

上々でした。例えば特許関連ソフトウェア企業のブースでは、開発担当者自らが操作画面を投影しながら説明し、聴講者が立ち見になるほど盛況だったといえます⁴⁰。こうした出展者プレゼンは各社ブースでの商品理解を促すとともに、フェア全体の学びの機会を広げる役割を果たしていました。



出展者によるミニプレゼンテーションの様子（特許検索AIツール「appia-engine」のブースにて）。聴講エリアは立ち見が出るほど盛況で、参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けていた⁴⁶⁴⁰。

総合的な満足度： セミナー・講演全般の満足度は非常に高く、参加者からは「最新動向を直接聞けて刺激になった」「無料とは思えない充実したプログラム」といった声が寄せられました。特に生成AI関連のセッションは軒並み人気で、業界の最重要トレンドを反映した内容であったことが伺えます⁵⁴。「知財業務と経営をつなぐヒントが得られた」「自社への導入を検討するきっかけになった」など、聴講後に具体的なアクションを検討する参加者も多かったようです。主催者発表によれば、会期中の来場者アンケート結果（後日公表予定）でセミナーの満足度も評価される予定とのことで、次回以降の企画にも期待が高まっています⁵⁵。

SNS上での反応

本イベント開催中および終了直後、X（旧Twitter）やFacebook、Instagram等のSNS上でも多数の反応が見られました。総じて**ポジティブな投稿**が多く、トレンドとなった話題やユニークなエピソードもいくつか報告されています。

生成AIブームの共有： SNS上では来場者・出展者問わず「会場がAI一色だった」「AIツールが本格的に実用段階に入ったと実感」といった投稿が相次ぎました⁹。ある来場者は「今年も知財情報フェアの季節がやってきた。昨年同様、どうしても旧称で特許情報フェアと言ってしまう…」と冗談交じりに述べつつ、「**今年は昨年以上にAIだけで驚いた**」とブログに綴っています⁵。実際、特許や商標の検索・分析にChatGPT等の生成AIを組み込んだ新サービスの写真やデモ動画が多数SNS上にアップされ、「**知財業界もいよいよAI時代突入だ**」とのコメントとともにリツイートされる場面も見られました。こうした投稿から、会場の熱気や最新技術への高い関心が広く共有されたことが分かります。

交流と学びの場として： 「#知財情報フェア」等のハッシュタグが付いた投稿では、「普段オンラインで交流する知財仲間とリアルで会えた」「ブースでの対話から得るものが大きかった」といった声も多数見受けられました。業界人同士のネットワーキングが活発だった様子が窺え、「**情報交換が刺激的だった**」²¹「**名刺が足りなくなるほど多くの方と話した**」など、フェアならではの交流機会を評価する投稿が目立ちます。ま

た「来場者同士で最新ツールの感想をその場で語り合った」「他社ブースで自社サービスのヒントを得た」といった具体的エピソードも報告され、知財コミュニティの盛り上がりがSNS越しにも伝わってきました。

「イヌキオ」現象：一部SNSでは、本イベント開催中に思わぬ**キャラクターブーム**が巻き起こったことも話題になりました。それが「イヌキオ」と呼ばれる犬のぬいぐるみマスコットで、特許分析ツール企業の**パテント・インテグレーション社**（サマリア社）のブースで限定配布されたノベルティです⁵⁶。可愛い犬のキャラクター「イヌキオ」は瞬く間に人気者となり、SNS上では入手できなかった来場者による「**#イヌキオ難民**」というハッシュタグまで登場しました⁵⁷。「知財フェアでイヌキオを知らないのはモグリだ」と冗談めかす投稿や、「うちの子（イヌキオ）、会社のデスクに飾りました！」といった報告もあり、**会場の内外で一種の盛り上がりを見せた**ようです⁵⁸。知財という硬いテーマのイベントの中で生まれた意外なブームに、「**論理だけでなく情理（情緒）も大事**という教訓を得た」という分析的なブログ記事も見られました⁵⁷⁵⁸。

懸念や議論の発信：SNS上ではポジティブな反応が大勢を占める一方、業界ならではの議論や懸念の声も一部で発信されました。「**AIに頼りすぎるリスクも認識すべき**」「**IPランドスケープ（知財×経営戦略）のブームが落ち着いた今をどう捉えるか**」といったテーマで、知財専門家がブログやX上で意見交換する場面もありました。例えば、ある知財コンサルタントはNoteブログで「IPランドスケープという言葉をあえて避ける企業も増えている」と現状を述べ、過度な期待から実務的な落とし所を探る動きについて論じています⁵⁹⁶⁰。また「AIで何でも解決できるわけではない」との冷静な指摘や、「人間の判断や知見とのバランスが重要」とのコメントも見られ、最新技術に沸く一方で専門家コミュニティ内では建設的な議論が行われていたことが伺えます¹⁹²⁰。このように、本イベントは**SNS上でも賑わいと議論の双方を喚起し**、知財業界内外への情報発信の場ともなっていました。

メディアでの報道・レビュー

業界最大規模の本イベントということもあり、開催前後には**専門メディアやプレスリリースを通じた報道**も行われました。共同主催の産経新聞社が発行する知財情報誌「知財情報&戦略システム」では、会期初日に最新号（第30号）を無料公開し、本イベントや関連トピックを特集しています⁶¹⁶²。また、知財ポータルサイトの**IP Force**は9月17日付で現場レポート記事を配信し、「**3日間で延べ1.5万人来場**」と過去最多の来場者数を見出しに伝えました⁶³。同記事では「**AIを使ったソリューション企業が加速度的に増加**」と近年の傾向を分析し、出展者のコメントとして「**AI搭載サービスを求める客が多く少しAI疲れもあるが、利便性向上は嬉しい**」といった生の声を紹介しています³⁴。さらに「**模倣品対策サービスなど商標関連ソリューションも昨年から増加し、競合との厳しい戦い**」との声も伝えられ、生成AI以外にもブランド保護分野の動向に触れる内容でした³⁶。このような専門媒体のレポートからも、今年のフェアにおける**AIブームと競争激化**というキーワードが浮かび上がります。

プレスリリースでは、主催者発表として「**40年超の歴史で国内最大規模の知財総合展**」である本イベントの開催が各種業界ニュースに取り上げられました⁶⁴。例えばPR TIMESには「**過去最大の152社出展『2025知財・情報フェア』9月10日開幕**」との見出しで事前告知が掲載され⁶⁵、複数のニュースサイトが開催概要や注目ポイントを報じています。また、特許庁やINPIT（工業所有権情報・研修館）など官公庁・関連団体も自社サイトのニュース欄で出展・協賛情報を発信し、本フェアが業界内で広く共有されました⁶⁶。INPIT公式X（Twitter）では「**2025知財・情報フェア&コンファレンス、大盛況のうちに終了しました...ブースへお越しいただいた皆さま、ありがとうございます！**」と投稿されるなど⁶⁷、関係各所から**感謝と成功を伝える発信**が相次いでいます。総じて、メディア報道はプレスリリースや専門誌の記事が中心ですが、「15,000人超えの来場者」「生成AI隆盛」などのキーワードとともに本イベントの盛況ぶりと業界動向が強調される内容となっていました⁶⁴。

なお、業界紙「日刊工業新聞」や知財専門誌『パテント』等での開催レポートも期待されるところです。特に知財業界の専門誌では、フェア期間中に発表・展示された注目ソリューションや各講演の要旨について詳細なレビュー記事が掲載される可能性があります。実際、昨年（2024年）のフェア開催時も、知財管理誌な

どで「AI時代における特許情報の最前線」といったテーマで複数ページの特集が組み立てられており、今年も同様の後日談的な報告が出てくると思われます。こうした専門メディアによる継続的な取り上げは、「知財×ビジネス」の最新動向を伝える場として本イベントが定着していることの裏付けとも言えるでしょう。

まとめ

2025年の知財・情報フェア&コンファレンスは、**記録的な出展規模・来場者数とともに大きな盛り上がりを見せ、概ね高い評価**を得て終了しました。^{68 22} 来場者からは展示会場の活況や有益な情報収集機会を評価する声が多く、出展者からも商談・交流の成果やフィードバック獲得に満足したとの声が寄せられています²⁸。特に生成AIを筆頭とする最新テクノロジーの展示・議論がイベント全体を席巻し、**知財業界が直面する地殻変動を映し出す場**となりました^{69 9}。一方で、知財と無形資産ガバナンスの新潮流や、知財コミュニティ内での課題意識の共有など、多様なテーマが交錯した点も本イベントの特徴です^{48 60}。

来場者・出展者の双方とも満足度は総じて高く、「**次回もぜひ参加したい**」との声も多く聞かれます。実際、早くも**次回2026年の開催（2026年9月16日～18日、東京ビッグサイト東ホール）**が予定されており^{70 71}、さらなる規模拡大と内容充実が予想されます。今年得られた知見や反響をもとに、運営側・出展側とも次回へ向けた準備が進んでいくことでしょう。知財情報フェアは今後も**知的財産とビジネスをつなぐ国内最大のプラットフォーム**として、業界関係者の期待に応え続けるものと考えられます。^{72 73}

最後に、本レポート作成にあたり参照した情報源（公式サイト、参加者のSNS投稿・ブログ、出展企業の発信、ニュース記事等）を以下に記載いたします。引用箇所ごとに出典を明示しましたので、詳細内容については該当ソースもぜひご確認ください。

参考資料・出典: ^{2 1 8 56 74 4 21 69 12 63 34 36 42 75 76 25} ほか本文中に記載。

^{1 2 7 10 11 14 23 61 68 70} 2025 知財・情報フェア&コンファレンス |
<https://pifc.jp/2025/>

^{3 34 35 36 63} 現場レポート：「2025年知財・情報フェア&コンファレンス」開催、3日間で1.5万人来場
<https://ipforce.jp/News/ip-news/topic/2025-09-17-8491>

^{4 19 20 21 74} yorozuipsc.com
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/8fd734b2c9a4d59aa9b7.pdf>

^{5 6 12 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 72 73 75} 2025知財・情報フェア&コンファレンス 徹底調査レポート
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/f6dd341e3cff15206ac3.pdf>

^{8 56 57 58 59 60} 知財情報フェア2025で感じたこと | AIの熱狂とIPランドスケープの静寂 | 塩谷網正@イーパテント・アクティスー知財情報を組織の力に®
<https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97>

^{9 13 15 16 17 18 22 24 25 26 27 28 37 40 55 62 64 67 76} 第34回 2025知財・情報フェア&コンファレンスの評価・評判
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c615a21fdac7910e6430.pdf>

^{29 30 31 33 71} 多くの出会いに感謝！2025 知財・情報フェア出展レポート – ミガリオ / MIGALIO Inc.
<https://www.migalio.com/report-2025-exhibition-56/>

³² 『2025知財・情報フェア&コンファレンス』ご来場お礼 | 世界初のYK値を活用した特許価値評価ウェブサービス | PATWARE
<https://www.patware.net/info/%E3%81%9D%E3%81%AE%E4%BB%96/pifc2025-2/>

38 39 2025 知財・情報フェア&コンファレンス参加 | 知的財産と調査

<https://ameblo.jp/123search/entry-12929414717.html>

65 66 過去最大の152社出展「第34回 2025 知財・情報フェア ... - PR TIMES

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001963.000022608.html>

69 知財の未来は“生成AIの使い方”で決まる ― 知財情報フェア2025の現場から | 平井智之/リーガルテック

https://note.com/yutori_jd/n/n3a4330a01691